



模擬講義一覽

学類	コース・分野	講義 NO.	開講 時間	会 場		講 師	講義テーマ・概要
				建物	教室		
人間発達文化学類	教育実践コース	①	11:00 ~ 11:30	M棟	M-4	森本 明	「子どもとともに創る算数授業」 小中学校に出かけ、算数・数学の授業をのぞいてみれば、きっと子どもたちの自由な発想や個性ある発見に心動かされることでしょう。子どもは、どのようにして算数・数学の仕組みを発見していくのでしょうか？子どもの発想や発見の素晴らしさに触れながら、算数・数学を学ぶ・教えることについて一緒に考えてみましょう。
		②	11:45 ~ 12:15	L棟	L-4	阿内 春生	「教育行政学ってなに？」 「教育の行政、政策を考える研究」と聞くと難しく聞こえるでしょうか。でも、教室も先生も通学区域もみんな、いろんな制度で決まっています。それらをうまく決めたり、適切に動かしたりしていくための研究が教育行政学です。教育学の中心とは言えませんが、とても重要な研究領域です。ちょっとのぞいてみませんか？
	心理学・幼児教育コース	③	11:00 ~ 11:30	L棟	L-4	住吉 チカ	「心理学とは？：認知心理学の観点から」 人は絶えず多くの情報を受け取っています。それらが生体内でどのように処理されるのかについて研究するのが認知心理学です。本講義で、認知心理学を通して、現代心理学の研究への姿勢などをお伝えしたいと思います。
		④	13:10 ~ 13:40	M棟	M-22	保木井啓史	「幼稚園・保育所での子どもの姿と保育者の技」 幼稚園や保育所では、「環境を通して行う教育」、「遊びや生活を通じた総合的な指導」と呼ばれる方法で教育が行われています。その遊びや生活の中で子どもたちが見せる、面白い・愛らしいしたたかな姿や、保育者(幼稚園教諭や保育士など)が駆使する技の一端を、本講義で紹介いたします。
	特別支援・生活科学コース	⑤	12:30 ~ 13:00	M棟	M-2	高橋 純一	「障害理解を科学する」 社会ではインクルーシブな環境の構築が謳われていますが、社会一般の障害に対する偏見・差別は未だ強く残っているのが現状です。本講義では、障害学、心理学、教育学などの知見をもとに、「知能の多様性」をキーワードとして、障害に対する偏見・差別の形成と変容について考えます。
		⑥	13:10 ~ 13:40				中村 恵子
	芸術・表現コース	⑦	11:00 ~ 11:30	M棟	M-22	加藤奈保子	「西洋美術への招待」 ひとつの美術作品が生み出されるにあたって、そこには作者や注文主だけでなく、制作当時の社会や文化、思想、宗教など様々な要素が深くかかわっています。この授業ではバロック時代のイタリア絵画を取り上げ、作品の多様な見方と美術史研究の基本について分かりやすく説明します。
		⑧	13:00 ~ 13:30	音楽棟	音楽講義室(201)	横島 浩	「みなさん、ソナタ形式ってご存知ですか？」 「古典から近代へかけての音楽形式のなかで、もっとも大規模で、かつ、もっとも重要なものはソナタ形式である(島岡譲)」。形式美を競った古典派の作曲家が生み出した最高傑作「ソナタ形式」とはどんなもの？実は、古典派時代が終末を迎えベートーヴェンが亡くなったのちに発見された形式なのです。とはどういうことでしょうか。
		⑨	12:30 ~ 13:00	M棟	M-4	高橋 由貴	「近現代文学」とは何をする研究なのか？」 「文学」とは何をする研究なのでしょう。「本を読むだけ」と思われがちな文学研究について、幅広い側面をご紹介します。資料調査・翻刻作業、新出資料の発表、小説や詩の発見・発掘・再検討、あるいは「世界文学」という考え方など、高校までとは異なる大学での本とのつきあい方について考えてみましょう。
	⑩	13:10 ~ 13:40	飯嶋 良太				「英語の盲点、英語の楽しみ」 大学では英語の授業も様々なタイプが開講されています。そのごく一部を紹介します。実用的な水準の英語を身につけるには、どんな方法でも時間がかかるのに対し、授業の時間数は限られていますから、扱う内容も限られています。入試を通った大学生でも知らない、でも基礎的な英語もあります。気軽に聴講してください。
	人文科学コース	⑪	14:25 ~ 14:55	L棟	L-4	小野原雅夫	「生き方の倫理学 一幸せになる方法一」 私が担当している「倫理学概説」では「自由とは何か」「幸福とは何か」といったことを考えてもらっています。今回の模擬講義ではその中でも「幸福とは何か」という問題に焦点を当てて、倫理学において幸福がどのようなものとして定義されてきたかをご紹介します。その上で、幸福の定義から導き出される幸福になる方法についてお話しさせていただきます。
		数理自然科学コース	⑫	11:00 ~ 11:30	M棟	M-2	平中 宏典
	⑬		12:30 ~ 13:00	M棟	M-22	中田 文憲	「幾何学とコンピュータ」 コンピュータで描いた様々な図形を鑑賞し、視覚的に大学の講義を体験します。近年はソフトウェアやプログラミング環境が発展し、複雑な図形や曲面などをコンピュータで描くことも容易になりました。大学の講義でも積極的に取り入れています。そのようなグラフィックスをいろいろ紹介いたします。
	スポーツ健康科学コース	⑭	11:45 ~ 12:15	M棟	M-2	小川 宏	「スポーツ文化と人間」 テレビや新聞ではスポーツの試合や結果、アスリートの話題が報道されており、日頃私たちはスポーツをしたり見たりして楽しんでいます。このように私たちの日常に深く浸透しているスポーツを一つの文化として捉えたとき、スポーツがどのような特徴を持ち、私たちとの関係はどうなっているか、等について概説します。
		⑮	13:45 ~ 14:15	L棟	L-4	蓮沼 哲哉	「東京オリンピック・パラリンピック開催意義」 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を目前にし、オリンピック開催の意義や福島大学の学生ができること、取り組んできたことの社会的貢献について講義し、スポーツの価値、オリンピック・レガシーについて考えていきます。

学類	コース・分野	講義 NO.	開講 時間	会 場		講 師	講義テーマ・概要		
				建物	教室				
行政政策学類	地域政策と法コース	①	13:45 ~ 14:15	L棟	L-1	黒崎 輝	「私たちはなぜ投票に行くのか？」 政治参加に関する政治学の知見を紹介しながら、私たち有権者が投票に行くことをどう説明できるか考えます。		
	地域社会と文化コース	②	14:25 ~ 14:55			久我 和巳	「映画の始まり：その社会的、文化的意義」 19世紀末のフランス、1分に満たない映画が初めて上映されました。当時の科学技術の結晶として誕生した映画の、社会的、文化的意義について、当時の作品を紹介しながら考察します。		
経済経営学類	グローバル・エキスパート・プログラム	①	11:00 ~ 11:30	L棟	L-2	伊藤 俊介	「福大で学ぶ！ グローバルな思考」 ボーダーレス化が進む今日の国際社会を、私たちはどのような眼差しで見つめ、またどのような姿勢で向き合うべきか？ 福島大学から始まるグローバルなアプローチ手法への扉をあなたも開けてみましょう！		
	経営学コース	②	13:45 ~ 14:15			奥本 英樹	「不確実性について考える」 私の専門であるファイナンスという学問分野において「不確実性」は、最も重要な概念です。「不確実性の本質」、「情報の価値」、「意思決定を行うことの意味」、この講義ではこうしたことについて、わかりやすく解説します。		
	経済学コース	③	9:50 ~ 10:20			M棟	M-24	吉田 樹	「地域創生を実現するモビリティ・イノベーション」 クルマを持たなくても、自由に「おでかけ」できる社会。人口減少と高齢化に直面し、誰もが楽しくおでかけできる環境づくりが求められます。こうしたなか、公共交通に情報技術が融合し、モビリティ(移動)の選択肢を拡げようとする挑戦が進んでいます。地域創生に結びつくモビリティ・イノベーションの最新線を紹介いたします。
共生システム理工学類	物理・メカトロニクス分野	①	11:00 ~ 11:30	M棟	M-23	高橋 隆行	「ロボットを開発するという事」 ロボットを開発するという事はどういうことか、わかりやすく解説します。ロボットは様々な要素技術が組み合わされています。それらをどのように最適に組み合わせるのか、研究室で実際に研究しているロボットを題材にお話します。		
	生命・環境分野	②	11:45 ~ 12:15			川越 清樹	「近くの水、遠くの水、そして、これからの水」 地球温暖化に関連すると推測される異常な猛暑、降雨、降雪に関するニュースが多く報道され、水に関する影響が危惧されています。「水道をひねれば水が出る」だけでなく、日常の生活の中では意外に水に接した営みが多く存在しており、みなさんが想像する以上に多くの影響が及ぼされています。そんな、地球上の水の経路(循環)を「近く」「遠く」で整理しながら、これからの生活の中での「水」の影響を考えてみましょう。		
	数理・情報科学分野	③	13:45 ~ 14:15			L棟	L-3	中村 勝一	「見えない世界の動きを可視化する」 ビックデータやAIなど、情報科学に関するニュースを毎日目にします。でも、大学で学ぶ情報科学が、高校とはどう違うのか想像しにくいですよね。本講義では、大学での情報科学の様子を、研究や卒業後の仕事など先輩達の活躍を交えて紹介いたします。
	物質・エネルギー科学分野	④	14:25 ~ 14:55					生田 博将	「エネルギーの缶詰「電池」 電池はその中に含まれている物質が引き起こす化学反応により電気を生じる、いわばエネルギーの缶詰といえます。私たちの身のまわりの様々な場所で電池が使われています。本講義では色々な電池について、イオンと電極反応の観点から説明します。
食農学類	—	①	9:50 ~ 10:20	M棟	M-1	望月 翔太	「世界が注目!! 人間と野生動物が共存する農村作り」 人間と野生動物は共に暮らす事ができるでしょうか？猫や犬など、愛玩動物とは一緒に暮らす事ができます。一方、野生に生息するサルやクマなどとは一緒に暮らす事は出来ません。しかし、彼らの存在を認め、棲み分けをする事は出来ます。この授業では、野生動物の行動や生態を通して、彼らとの関わり方について説明します。		
	—	②	10:20 ~ 10:50			篠田 徹郎	「これからの害虫とのつきあい方」 農耕の歴史は害虫との戦いでした。現代では優れた化学合成殺虫剤が利用できますが、頼りすぎは抵抗性の発達など様々な問題を招きます。これから私達が害虫とうまくつきあって行くためにはどうしたら良いのでしょうか？本講義では害虫の生理・生態的特性を踏まえた持続可能な害虫管理技術について学びます。		
	—	③	13:45 ~ 14:15			高山 太輔	「データ分析で農地を守る？」 耕作放棄地が増えています。現在、富山県と同じ面積の農地が耕作されず放棄されています。政府が耕作放棄地を防ぐために行ってきた政策は効果がなかったのでしょうか。そもそも政策の効果はどのように測れば良いのでしょうか。現場でみたら、経験したからといった主観的な判断ではなく、データ分析を通して科学的にその方法を考えてみましょう。		
	—	④	14:25 ~ 14:55			升本早枝子	「食と健康の科学」 「果物って太るの？」「リンゴは皮ごと食べなきゃダメ？」「腸内環境が大事らしいよ？」「酵素って身体にいいの？」「ポリフェノールって何？」…世の中にあふれる沢山の情報を皆さんは正しく理解していますか？食品機能学は食と健康の「謎」を科学によって解明する学問です。正しい知識を身につけて、美味しく食べて健康になりましょう！		
環境放射能研究所	—	①	12:30 ~ 13:00	M棟	M-23	高田 兵衛	「天然放射性物質をはかって海洋の動きがわかる？」 海水には様々な物質が存在し、その中には天然放射性物質も含まれています。実は、天然放射性物質を細かくはかることで、海洋の動きが読み取れます。講義の前半では、簡便な方法で海水中の主要な物質をみてもらい、後半では、「天然放射性物質をはかる」→「海洋の動きがわかる」の理由を研究例から紹介いたします。		
	—	②	13:10 ~ 13:40			イスマイル・ラハマン	「科学を仕事にすること ~バングラデシュから日本へ~」 科学に関する疑問は尽きることがありません。高校生だった私は、科学、とりわけ化学のそんなところに惹かれ、自分の進路を決めました。より発展的な研究をしたいと思い母国を飛び出し、今、福島大学の教員として仕事をしています。バングラデシュと日本で研究者として続けてきた挑戦を、簡単な英語でお話します。		